

令和5年度第3回尾張旭市男女共同参画審議会 会議録

1 開催日時

令和6年2月22日（木）

開会 午前10時05分

閉会 午後 0時00分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 302・303会議室

3 出席委員

松澤 裕子、松林 康博、福田 祥治、靱山 みさき、水野 みち代、
上井 絹子、横井 寿史、森 朋子 8名

4 欠席委員

禾本 雅子、長谷川 裕子、石川 葵、小高 京子 4名

5 傍聴者

なし

6 出席した事務局職員等

多様性推進課長 塩田 駒子

多様性推進課長補佐兼多文化共生係長 喜多野 純子

多様性推進課男女共同参画係長 佐藤 隆亮

株式会社サーベイリサーチセンター名古屋事務所 本間 裕香

株式会社サーベイリサーチセンター名古屋事務所 宮澤 明日香 5名

7 議題等

(1) 第3次尾張旭市男女共同参画プランについて

ア 第3次尾張旭市男女共同参画プランの策定に係るアンケート調査結果等

イ 高校生ヒアリングの結果について

ウ 市民ワーキンググループの開催結果について

エ 重点施策（案）について

(2) 尾張旭市ファミリーシップ制度の導入について

8 会議の要旨

事務局 (課長)	本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。多様性推進課長の塩田と申します。 それでは、ただ今から、令和5年度第3回尾張旭市男女共同参画審議会を開催いたします。終了は午前11時30分を予定しておりますのでよろしくお願いします。 本日は、禾本雅子委員、石川葵委員、長谷川裕子委員及び小高京子委員より欠席の御連絡を頂いておりますので、12名の委員のうち、8名の方に御出席いただいております。 尾張旭市男女共同参画審議会規則第4条第2項の規定する過半数の出席を得ていますので、本審議会は成立しておりますことを御報告いたします。 本審議会は、市の「附属機関の会議の公開に関する基準」に基づき、傍聴者の傍聴を認めていること、「附属機関の会議録等作成に関する基準」に基づき、情報公開の対象となること、また会議録に委員のお名前を掲載することをあらかじめ御了承ください。
	<資料の確認>
事務局 (課長)	なお、先回に続きまして、本日も、第3次男女共同参画プランの策定の支援を委託し、協力をいただいております「株式会社サーベイリサーチセンター名古屋事務所」のスタッフにも同席いただいております。 それでは、これ以降の議事を、本審議会の会長の、松澤裕子 委員にお願いいたします。
議長 (会長)	それでは、進行を務めさせていただきます。 議題の「(1) 第3次尾張旭市男女共同参画プランについて」、「アの第3次尾張旭市男女共同参画プランの策定に係るアンケート調査について」、事務局から説明をお願いします。
事務局 (係長、サーベイリサーチセンター)	<説明>
議長 (会長)	ありがとうございました。 アンケート調査について、集計と分析の結果を伺いました。 アンケート結果やそこから見える傾向等の分析などについて、何かおたずねになりたい点などがありましたら御発言をお願いします。 ボリュームが多いので、区切って伺いたいと思います。まず、1ページ目から3ページ目までで、いかがでしょうか。
横井委員	育児休業の取得経験（問14）について、男女別の表記としてはどうか。

事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	報告書作成時は、男女別で結果報告をするようにいたします。
議長 (会長)	他の項目についても、ここに載せているとおりでなく、男女別で載せる予定をしているということでしょうか。他にも、男女別がよい項目があると思います。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	男女別で結果報告をするようにしようと思っています。
議長 (会長)	報告書の中身のグラフ等は、今回の資料の表記と同じですか。文字や凡例の大きさなど、このままでは読みにくいと思いますが。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	今回の資料の大きさのままということはありません。読めるような大きさにいたします。
議長 (会長)	問 8、9 などは複数回答でしょうか。複数回答なら、その旨を記載しておくとういと思います。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	複数回答なので、その旨、記載するようにいたします。
議長 (会長)	あと、感想のようなことになりますが、問 11「男性が家事や子育て等に積極的に参加するには」の多い回答を見ると、夫婦や家族間でのコミュニケーションや男性の抵抗感をなくすなど、制度よりも個人の意識改革が必要だというレベルの回答が多くなっていると感じました。 他にありますか。
松林委員	問 7 ですが、男性のほうが収入が高いとか、女性の収入は M 字カーブの形態が多いので、その状態だとこのような選択をするのかな、と思います。データから見える事実はそうなんですが、収入差も踏まえると、男性が仕事を辞める選択にはならないということだと思います。 これは、男女の意識ではなくて、家計を成立させるための選択だと思います。意識を変えるだけではなく、収入差の問題もあるので、この質問をどう位置付けるかは考えました。
議長 (会長)	ありがとうございました。他に何かありますか。 では、続いて 4 ページ目から 5 ページ目、DV や多様な性に関するところでいかがでしょうか。
議長 (会長)	私から一つ。問 23 の「周りに L G B T 等の人がいた時の関わり方」について、あとの小中学生のアンケートにも関係してきますが、「手助けする」の言葉の意味が分かりにくかったのではないかと思います。

	ます。何をするのか、よく考えると、どういうレベルでの手助けか、分かりにくいと思いました。特に、小中学生には難しかったかもしれないと思います。 今更ですが、設問の表現がこれでよかったか、と思いました。他にいかがでしょうか。
松林委員	同じところですが、今の小中高校生は、こういったことは教育の中で学ぶのだらうと思います。私も授業に取り入れることがあります。 しかし、私の学生時代にはそういったことはなかったです。私も親世代の年齢ですが、周りの人や子どもがそういう人だった時に、対処の仕方が現実的に分らないです。 若者は意識が変わってきているかもしれないが、自分たちの世代は、今更教育も受けられず、通り抜けてしまっているケースが多いのだらうと感じました。
議長 (会長)	では、次のページに行きます。＜男女の意識について＞というところで、お気づきになったことが何かありましたらお願いします。
福田委員	問２５の「職場での男女の地位の平等」は、男性優遇という意見が多いのですが、やはり、会社の風土、女性に対する賃金格差をなくすなどをやっていかないと、この数字は減っていかないと感じます。
議長 (会長)	ここは、先ほどの松林委員の意見にもかかわってくるのかと思います。 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。
松林委員	私も職場についてですが、もう少し分けて見ないと難しいと思います。例えば、給料が男性のほうが多いという場合、人事や評価の制度が整っているか、ということになってくると思います。日本の７割くらいの方は中小企業で働いていますが、社長の目分量で評価が決まる場合があります、そうなってくると、公平な評価の仕組みがなく、なんとなく周囲もそれを受け取ってしまうようになってくる。意識と制度の問題を切り分けて、深掘りして考える必要があると思います。 学校教育の部分は、平等感が高くなりそうだと思います。
議長 (会長)	ありがとうございました。他にいかがでしょうか。
森委員	民間企業で働いている立場からすると、グラフのとおりだと思います。問１５にあるとおり、男女に賃金や昇給などの格差があることは男性も認識していて、そのうえで、職場での状況を答えていると思います。人事制度はあるけれど、我々４０代の職員の評価制度は昔のままです。入社時点から、昇給率が違うので、男性のほうが賃金や昇給が高い、女性は高くない、ということは、どこでもあり、大手でもありました。 今は、大手では格差がなくなっていると聞きますが、若い世代の評価制度は変わっているけれど、４０代などの育児や介護を担う中間層は、制度のはざままで従来のまま、という状況だと思います。

福田委員	人事制度はあるけど、それを回していない。 評価をするときに、自分がやった実績などを面接シートに書いて、面談して、成果を把握する、という回し方をして、本人の評価ランクを説明の上で決める、というやり方をしています。 しかし、中小企業では、そういう回し方ができていないのが課題だと思います。
森委員	仕事もいろいろ種類があり、それを社員に割り振るときに、お茶くみなどの雑務は女性社員に割り振られます。人事評価の仕組みに「この仕事ができたらこの評価」と決められた仕事が、希望しても自分に回ってこないのが実情です。少ない人員で仕事をしているので仕方ないとも思いますが、大手では社員も多いので違うのだろうと思います。現実的には難しい部分だと思います。
議長 (会長)	私からも。 ここは「男女の意識」という広いくくりなので、最初に横井委員からあったとおり、男女の違いを際立たせてほしいと思います。 問２５ですが、内閣府の調査が見やすく示されていました。学校教育などとの違いがより際立つかと思います。 あと、問２８は、複数回答の記載をお願いします。
議長 (会長)	では、次のページに行きます。 小中学生調査に入っていきます。ここでの「親世代」は、「１８歳以下の子どもがいる」と回答した人、ということでもいいですね。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	そのとおりです。
議長 (会長)	では、何かありましたらお願いします。
松林委員	問３では、小中学生は、家庭生活では男女平等だという認識を持っていて、親世代はそうではないとなっています。かなりギャップがあると思いますが、そのあたりの見解はありますか。
事務局 (課長)	問６では、日常の家事はお母さんがやるとよい、という意見が見られます。ここで、「平等」と答えている割合が多いのに、問６のその回答は不思議です。
松林委員	お父さんの能力を考慮して、お母さんがいい、という意見ではないのかと思います。お父さんの料理よりお母さんの料理のほうがおいしい、というような考えではないかと。
横井委員	お父さんが忙しすぎる、全然帰ってこない、だからお父さんにやれていうのは酷、ということもあると思います。平日、夕食のときにお父さんが帰ってきていなくて一緒に食べられない、９時や１０時にお父さんが帰ってくる、というふうでは、お母さんにやってもらう、というのは当たり前にならざるを得ないと思います。
松林委員	問３は、お父さんのその状況を理解した上で、お父さんもやれる範囲の中でやっているということを理解して、家庭生活では平等と答えているのかもしれないですね。

横井委員	おもしろいのは、小中学生の評価では、女性の方が優遇されている、という評価が高めに出ています。学校生活などは、特に女性が優遇されている、の評価が高くなっています。他の世代では、そのようなことはほとんどありません。
森委員	中学生の親からすると、「通知表の評価で、女子のほうに優遇される」という男子たちの意見があって、こうなっているのかなと思います。
議長 (会長)	重いものを運ぶのは男子、ということも高校生ヒアリングの結果には書いてあったので、そういうことかもしれないと思いました。 また、今の話では、子どもに見える範囲では平等に見えているのかもしれないと思いました。「名もない家事」をお母さんがやっている、影のお母さんの努力を子どもは知らない、それが不平等感につながっているのかもしれないと思いました。 いろいろな要因があるのだろうと思います。
議長 (会長)	では、次のページに行きます。 小中学生調査の＜普段の生活＞で何かありましたらお願いします。
議長 (会長)	問１０「将来、どのような働き方をしたいか」は、男女別回答があるとよいと思います。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	中学生の問１０の回答を男女別でみると、「ずっと仕事を続けたい」は、男性で３０％くらいですが、女性は１０％程度まで下がります。 「結婚するまで」や「子どもができるまで」、という回答が、女性ではチラホラ見られる、という感じです。
議長 (会長)	女子は、子どもの頃からそういう意識を持っていると。
松林委員	問１０には、「結婚するまで」などの選択肢がありますが、「結婚しない」という人はどう選んだのか、と思いました。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	その場合は、「わからない」や「その他」を回答されたと思います。
松林委員	あるイベントで、ある女子高の半分くらいの女子生徒は結婚したくない、と思っていると聞いたことがあります。 結婚することを前提にしているように見えました。
議長 (会長)	その場合は、ずっと仕事を続けたい、と回答されたかもしれないですね。
議長 (会長)	では、最後のページに行きます。 ＬＧＢＴに関するところですが、全体を通してでも結構です。何かありましたらお願いします。

議長 (会長)	よろしいでしょうか。
事務局 (課長)	「３．成果目標の達成状況」のところの説明がまだでしたので、ご説明いたします。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	平成３０年の数値は、市民まちづくりアンケートの一部で質問したものです。それをもとに、当時設定した目標値を記載しています。 令和５年度は、今回のアンケート調査の結果から記載しています。 かなり数値に差があります。これは、平成３０年度と令和５年度が別のアンケートからとっていることが理由に挙げられます。 特に今回のアンケートは、男女共同参画に関心の高い方が回答したものですので、差が出る要因となっています。
福田委員	一番上の「社会全体での男女の平等感」は、平成３０年は約３５%だったのに、今回は１０.６%。大きく下がっています。これはどのような数字を拾ったものですか。
事務局 (サーベイ リサーチセ ンター)	「社会全体での男女の平等感」は、平成３０年のまちづくりアンケートでは約３５%の方が「社会全体」について「平等である」と回答しています。 今回の男女共同参画プランのアンケートでは約１０%となっています。このとりかたは、「社会全体」について「男性優遇」「やや男性優遇」「平等である」「やや女性優遇」「女性優遇」の５段階の選択肢のうち、中間の「平等である」という回答の割合です。 なお、男女共同参画プラン中間見直し版１１ページをご覧くださいますと、プラン見直しのためのアンケートの結果では、１２%となっています。 少し下がってはいますが、大きな変化はなかったと考えています。
事務局 (係長)	市のアンケートのやり方について、少し補足いたします。 平成３０年の値は、中間見直し版５５ページにもあるように、まちづくりアンケートで把握することとなっており、市民にまちづくりに関するいろいろな項目を聞くアンケートの一項目として、このことを聞く、というやり方で３４.８%という数字でした。また、男女共同参画プランの見直しのためご協力ください、とお願いしたアンケートでは、１２%という結果でした。 男女平等が、どの程度のレベルなら「平等」なのか、という市民の認識も、時代の進行とともにハードルが上がっているように思います。 そうすると、今回の１０.６%は１２%からやや下がっていますが、その理由も見えてくるかと思います。 市役所内部の話にはなるのですが、まちづくりアンケートが廃止されてしまったため、同じような取り方ができず、このようになっています。
議長 (会長)	まちづくりアンケートの回収率は分かりますか。

事務局 (係長)	持ち合わせておらず、申し訳ありません。 今回のアンケートは、40%を少し切るくらい、39%くらいでした。
議長 (会長)	今回のアンケートは、郵送だけでなく、Web 回答もあったのに、低い結果だったな、と思いました。 よっぽど関心のある人が回答しているので、厳しめの評価になっている、ということかもしれないですね。
福田委員	私たち審議会委員としては、この数字はショックだな、と感じます。
事務局 (係長)	男女共同参画に関心の高い方が、男女平等じゃない部分がクローズアップされることが社会全体としても多いという時代背景を踏まえて回答された結果だとすると、ある程度厳しくなるのかとも思います。
議長 (会長)	これは、達成状況として評価をAとかBとか付けるわけですか。
事務局 (係長)	このままですと、実施方法の変化により「－（その他）」を選ばざるを得ないものばかりになってしまうので、この数字だけ見て「大きく下がった」と思われることは回避できるような記載方法を、協議したいと思っています。
事務局 (課長)	前回のプラン見直し時のアンケート結果を1列はさむなどして、対応したいと思います。
議長 (会長)	ありがとうございました。 では、続いて議題の(1)「イ 高校生ヒアリングの結果について」、事務局から説明をお願いします。
事務局 (係長)	<説明>
議長 (会長)	ありがとうございました。 高校生には、直接対面でヒアリングを実施し、生の意見を聞いて来られたとの説明でした。 ヒアリング結果などについて、何かおたずねになりたい点などがありましたら御発言をお願いします。
議長 (会長)	私からよろしいでしょうか。 ヒアリング対象の生徒さんの選定は、学校側でされたのですか。 性別、男女比などは、何かお願いしたのですか。
事務局 (係長)	学校側に、数人の生徒さんにヒアリングさせていただきたいことをお願いしたところ、生徒会の生徒何人かで、と承諾をいただいたものです。 生徒会の生徒さんが何人かおられる中から、男女比なども踏まえて選定されたのだらうと思います。
議長 (会長)	理系と文系の比率は、女性の理系選択が進んでいるという話でしたが、同じ理系でも、女子生徒さんは看護系への進学が多いので、本当に平等になっているかどうかは分からない部分もあると思います。

事務局 (係長)	生徒さんとしては、「文理の選択は、男女で同じ程度」という認識だということですね。
森委員	文系と理系の比率のところで、入るのが難しい旭野高校の生徒会の生徒さんということで、優秀な生徒さんが答えられたのかなと思います。 旭野高校は昔からこんなような比率だと思いますが、隣の長久手高校は、文系が多くて、看護のクラスが別にあって、理系は少数という状態。入学して、理系に行きたいなら、1年生の時から「理系に行きたい」と主張していないと理系クラスに入れない、という状況です。 なので、高校によって違いがある、市民全体が旭野高校の状況にはない、ということを理解しておくことは必要だと思います。
事務局 (係長)	市内唯一の高校だったので、こちらにお願いしましたが、違う学校にヒアリングしていたら、結果は違ったかもしれないですね。今回のヒアリング結果を、一般的な意見とは考えてはいけないというご意見は、承知いたしました。
議長 (会長)	ありがとうございました。 では、続いて議題の(1)「ウ 市民ワーキンググループの開催結果について」、事務局から説明をお願いします。
事務局 (係長)	<説明>
議長 (会長)	ありがとうございました。 市民アンケートに回答してくださった方の中から参加希望者を募って、ワーキンググループを2回開催したとの説明でした。 開催結果などについて、何かおたずねになりたい点などがありましたら御発言をお願いします。
議長 (会長)	参加者の年齢層は、60代くらいでしょうか。
事務局 (課長)	もう少し上、70代の方もおられたと思います。
水野委員	参加人数は4人だけでしたか？
事務局 (課長)	6人のお申し込みでしたが、参加は4人でした。
議長 (会長)	以前に、まちづくりの関係で市民ワーキンググループに参加したことがあるのですが、その時は何十人もいて、若い人もみえて、大学生なども参加してくださっていました。
事務局 (課長)	今度、都市計画課もまちづくりでワーキンググループを開催しますが、40人くらい集まったようです。 しかし、「男女共同参画」と言ったとたん、人が集まらないというのがあり、差が激しいです。

事務局 (係長)	人数が少なかったので、写真にもあるとおり、職員も中に混ざって参加いたしました。出された意見として資料にあるものには、職員も一市民として意見を出しています。
水野委員	先ほどのまちづくりのアンケートと男女のアンケートを比べること自体がおかしいと思うが、行政の方でアンケートの一本化ができないのか。本当の市民の意見が見えてこないの、まちづくりと男女共同参画で一本化したりするなど、縦でなく、横の連携で効率的にやってほしいです。正しい意識調査ができないと思います。
議長 (会長)	今後、まちづくりアンケートは行わないのですか。
事務局 (課長)	これからは、やらなくなりました。 都市計画課もプラン作成のために、個別にアンケートを行っています。
議長 (会長)	それだと、なおのこと細分化して、テーマごとのアンケートになっていくのですね。
水野委員	市として、どこかの部署が、市民全体の意見を聞くようなことをしないと、アンケートが多数になり、回答する市民の負担も、費用もかかるのではないかと思います。
福田委員	市の総合計画が策定されたと思います。そこがベースになるのではないのでしょうか。 その中に、男女共同参画も含まれていますか。
事務局 (課長)	ジェンダーという項目が、第六次総合計画としてちゃんとあります。
福田委員	ベースとして総合計画があるなら、そのためのアンケートでいろいろとやっていくのが効率的ではないのでしょうか。
議長 (会長)	質問量が増えると回答率が下がる、ということはあると思いますので、難しいですね。
事務局 (課長)	まちづくりアンケートは、量が多すぎて、苦情がよく来るということはありました。
森委員	まちづくりのワーキングに若い方が多いのは、進学などを考えたときに、こういうワークショップに参加しました、という実績が受験や推薦の時に役立つと考えて、親も参加させたりしているから多いとか、就職のときも環境系の仕事に就きたい人は、こういうワークショップに参加したいからだと思います。 キャッチフレーズひとつで、変わってくるのかと思います。
事務局 (係長)	まちづくり全般のいろんなことについて、このまちをこうしていきたい、ということと言える場には参加したいが、男女共同参画のことだけでは参加したいと思わない、ということがあると思います。 他の市のやり方では、プラン策定用の個別アンケートを取らず、項

	目の少ないまちづくりアンケートだけで終わらせてしまう場合や、そもそもプラン自体を策定せずに、総合計画の項目を計画とします、という市もあります。 尾張旭市では、別に条例を定めて、男女共同参画に関するプランはちゃんと作ろうね、ということを決めているので、プランの策定に当たっては、それ用に改めてアンケートを実施する、ということで、このようなやりかたになっています。
水野委員	丁寧なんですね。
議長 (会長)	「男女共同参画」というワード自体を変えていくことも必要かもしれないですね。
事務局 (係長)	それをどう変えるかは、難しいところです。でも、そこが、市民の意識が高い・低いというところなのかもしれません。
議長 (会長)	多様性推進課なので、「多様性」という言葉を打ち出したほうが、今の若い人達は興味を持ってくれるかもしれないですね。
事務局 (係長)	前の総合計画のアンケートで、いろいろな分野について、関心がある・ない、重要だと思う・思わない、という項目がありました。市民にとって、男女共同参画は、残念ながら、非常に関心が低く、重要だと思わない、という位置づけだという結果でした。
議長 (会長)	ほかに、ワーキングの関係はよろしいでしょうか。 はい、ありがとうございました。 続いて議題の(1)「エ 重点施策（案）について」、事務局から説明をお願いします。
事務局 (係長、サーベイリサーチセンター)	<説明>
議長 (会長)	ありがとうございました。 基本的な男女共同参画に向けた意識改革のほか、地域防災、女性活躍とワークライフバランス、性の多様性、暴力の防止といった、いずれも行政の取り組みとして重要な項目を重点施策に選定した、との説明でした。 何かおたずねやお話しになりたい点などがありましたら、御発言をお願いします。

横井委員	3の女性活躍ですが、女性活躍だけを前面に出すと、女性が家庭的責任の負担を背負ったまま、女性に過重労働を強いるだけになってしまいます。男性が当たり前に家庭で活躍するということが必要だと思います。ワークライフバランスに、その点は含まれているかと思いますが、言葉としてぼやけてしまうと思います。 女性活躍を入れるのであれば、男性が家事や子育てに参画するというのを、もっとバシッと見えるように出すべきだと思います。
事務局 (係長)	女性の社会進出に対して、「男性の家庭進出」という言い方をされることがありますが、それができていない現実があるということは、問題として考えていますので、おもてに見える形を考えたいと思います。
議長 (会長)	ほかによろしいでしょうか。
松林委員	1の男女共同参画に向けての意識改革ですが、個人の問題もありますが、個人ではどうにもできない企業の問題もあると思います。特に愛知県は製造業の割合が20%くらいと多く、製造業だとどうしても男性が多く、男性優位の職場がしやすい中で、企業としても変わっていかないといけないと思います。 それはこの課だけでできることではないと思います。どの企業でも人手不足です。産業課では、合同説明会のようなイベントをやっても、全然学生が来ない、となっていると思います。これは全国的にそういう状況です。 企業は、どうやったら若者を採れる仕組みを作るか、という課題を抱えている状況です。そんな中、尾張旭市の企業が若者に来てもらえるようにする切り口の一つとして、多様性推進課と産業課で協力して取り組みをしていかないと、多様性推進課の皆様だけで変えていくのは難しいと思います。
議長 (会長)	今のご意見について、現時点で、何か取り組みなどありますでしょうか。
事務局 (係長)	愛知県が、女性活躍などに積極的に取り組んでいる企業などを特設サイトで紹介したり、そのような企業が役所の入札に参加する場合にはプラス何点かしたりする、といった制度があります。尾張旭市も入札制度に取り入れています。 そういう企業をめざそうとする人が増えれば、自社もそうしようと努力をする企業が増えると思います。 それが進められている企業ばかりではないと思うので、引き続き取り組んでいくところだと思います。
事務局 (課長)	事業所アンケートは、30社余りに送って、10社余り、3分の1程度返ってきています。事業所にメリットがないとなかなかお返しいただけないですが、よく返していただけたほうだと思います。
松林委員	市の規模などで、どこまで産業イベントができるかわ変わってくるとは思います。大きい市では合同企業説明会なども開催しています。そういう時に、紹介冊子に男女共同参画の項目を設けるとか、男女共同

	参画の取組み状況により、紹介冊子やチラシで上位に掲載するなどすると、企業が取り組んでいることがより可視化しやすくなると思います。 何か、連動してできることがあるといいと思います。
議長 (会長)	ありがとうございました。 他によろしいでしょうか。 事務局におかれましては、今の意見を踏まえて、重点施策をはじめ、プランの内容について、よりよいプランとなるように検討していただきたいと思います。 続いて、議題の(2)「尾張旭市ファミリーシップ制度の導入について」事務局から説明をお願いします。
事務局 (係長)	<説明>
議長 (会長)	ありがとうございました。 パブリックコメントの実施、県の動向などを踏まえた修正、市役所内部でのファミリーシップ制度の利用者に対する行政サービスの提供などの検討のうえで、3月1日よりファミリーシップ制度としてスタートすることになったとの説明でした。 何かおたずねになりたい点などがありましたら御発言をお願いします。
議長 (会長)	特にございませんか。 ありがとうございました。 この制度については、これまでの本審議会でもいろいろと意見が出されていきましたので、無事に制度が導入される運びとなったということで、ようやく一つの区切りが迎えられると、審議会としても安心しました。 今後も、様々な取組を期待しています。 次に、その他ですが、事務局より何かありましたらお願いいたします。
事務局 (係長)	<報告、事務連絡>
議長 (会長)	ありがとうございました。 今年度の審議会は今回が最後となりますが、来年度も引き続き、新プランの策定に関する審議などが続きます。 これからもどうぞよろしくお願いします。 ではこれにて、令和5年度第3回尾張旭市男女共同参画審議会を終了いたします。 皆様、お忙しい中ありがとうございました。